新発田市 育成会だより

第３８号
発　行
NPO法人新発田市手をつなぐ育成会
新発田市五十公野4970－2
老人福祉センター金蘭荘 内
TEL　0254－28－8670
FAX　0254－28－8671
E-mail:ikushiba@jeans.ocn.ne.jp
育成会は知的障害児・者の親の会です。

共生社会の実現に向けて

新発田市長　二階堂　馨

「育成会だより」への寄稿にあたり、はじめに「新発田市手をつなぐ育成会」の皆様の日頃の取り組みに、敬意を表しますと共に、当市の福祉行政にご理解・ご協力を賜り心からお礼申し上げます。

新発田市では、昨年に引き続き、「産業振興」、「少子化対策」、「教育の充実」を３本柱に「住みよいまち日本一健康田園文化都市・しばた」を目指し、施策を進めているところでございます。昨年からは、新庁舎や新発田駅前複合施設、病院の跡地整備等大きな事業も進んでおり、また、障害福祉に関連する分野では、村上特別支援学校いじみの分校の竹俣校舎がスタートしております。今後においても、「子育てするならば新発田、教育するならば新発田、勤めるならば新発田」と皆様から思っていただけるよう、種々の施策を展開し、人口減少の危機を乗り越えていきたいと考えておりますので、これまで同様、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、皆様ご承知のように障害者自立支援法が「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援する法律（障害者総合支援法）」に改正され２年が経過しようとしております。この改正により、障がい者の範囲に難病も含まれ、また、重度訪問看護の対象拡大、ケアホームのグループホームへの一元化等、着実に共生社会の実現に向けた取り組みが進んでいくものと感じております。当市においても改正の趣旨を十分に理解し、できるだけ多くの対象者を支援できるよう努めてまいりたいと考えております。

また、皆様も大きな関心を持っておられることと思いますが、平成28年４月から障害者差別解消法が施行されます。法律においては、差別的取り扱いの禁止はもちろんのこと、行政には「合理的配慮」の提供が義務付けられます。行政は、日常生活の多くの場面において市民の方々と接する機会が多いことから、「合理的配慮」の提供義務について、市の内部において更に周知を図り、共通認識のもと施策を進めていく必要がありますが、今後は、これまでにも増して障がいを持つ方ご本人やご家族の声が重要となってくると考えられます。障害福祉に関しては、できるだけ当事者の方々のご意見をお聴きしながら、施策を展開していきたいと考えておりますので、手をつなぐ育成会の皆様からも積極的にご意見やご助言を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、「新発田市手をつなぐ育成会」の活動が今後も重要かつ期待されますことから、会員の皆様・地域・関係機関・行政の繋がりが更に強められ育成され、引き続き積極的な事業展開が継続されますことをご期待申しあげまして、あいさつとさせていただきます。

課題解決に向けて情報発信を

新発田市手をつなぐ育成会
理事長　籠島　由美子

平成二十八年より、障害者差別解消法がスタートしますが、今年二月基本方針が策定されました。行政機関や事業者が配慮すべき具体例などが示されており、障がい者の自立と社会参加の促進が社会全体で考えられていくことになります。障がいの有無によって分け隔てられることのない共生社会の実現に向けて、この法律には大いに期待したいところであります。

昨年六月「全日本手をつなぐ育成会」は社会福祉法人格を返上し新たな連合体へと生まれ変わりました。手をつなぐ育成会の原点というべき国への政策提言、権利擁護、情報発信、本人活動支援といった活動は、これまでの機能を全国八ブロックの各地域で分担し、新たに発足した「全国手をつなぐ育成会連合会」が継続しています。

この変革が、正会員である各都道府県等育成会五十五団体の連携強化の良い契機になることを期待しています。そして私たち市町村育成会はそれぞれの運動を増々活性化し、その中からわき出てくる会員の声を政策提言につなげて頂く。組織が変わっても、その動きは先人の思いを引き継いでいくことでしょう。

平成二十七年度は、会員以外の方々への情報発信を積極的に行いたいと思います。そのために新しく研修部の創設を計画しています。また、障がいのある本人と家族の高齢化に伴う課題を考えるための委員会の設置も検討中です。会員の皆様には、子どもの障がい受容、早期療育、特別支援教育やインクルーシブ教育、地域支援、障がい者本人と同居家族の高齢化、親亡き後の支援などなど、私たちが抱える様々な課題を一緒に考えて頂きたいと思います。ご意見やご提案をお寄せください。

さて、絵手紙クラブが継続して行ってきた義援金の寄付に対し、昨年十月「福島県手をつなぐ親の会連合会」様より、感謝状を頂戴いたしました。絵手紙クラブを代表して佐藤直人さん親子といわき市に赴き盛大な大会において拝受して参りました。

平成二十六年度もスマイル、絵手紙・太鼓・よさこい各クラブのメンバーが大いに活躍をしてくれました。その結果、多くの方々に知的障がいのあるわが子達の笑顔と共に、がんばっている姿や才能、魅力を見て頂くことができました。彼らにはこれからも弱さや不器用さ、不自由さを抱える障がいのある人たちの『可能性』を発信し続けてほしいと思います。もちろん、それら活動の全てに、サポートしてくださる会員の皆さん、企業、行政、関係施設の方々、地域のボランティアの皆様のご理解とご協力があることに感謝を申し上げます。

福島に行ってきました

絵手紙クラブ　佐藤　直人

ぼくは福島に行ってきました。絵てがみのカレンダーを買ってもらったお金をきふしたからです。

大きな会場でみんなを代表して理事長といっしょにかんしゃじょうをもらいました。きんちょうしたけど、すごくうれしかったです。

また、がんばって絵てがみを書いていきたいです。

太鼓倶楽部一年を振り返って

保護者　三母　美代子

8月に緑風園の納涼祭、新発田まつり、10月にボランティアフェスティバル、12月に育成会のクリスマスパーティーと沢山のイベントに出演いたしました。

また7月にはさえずりの里でバーベキューを、参加者40名での楽しい交流会を行いました。

昨年度から〝豊年太鼓〟〝絆〟の持ち曲に新たに〝桜咲く頃あやめ咲く頃〟の曲が加わりました。前々年度の新発田まつりの演奏曲でしたが、その時の演奏発表には間に合わず、その後1年程の練習の成果で、晴れて持ち曲の仲間入りとなりました。

太鼓倶楽部にとって初めて歌のある曲で、聴いている私のワクワク度はとってもアップします。

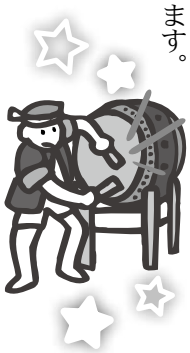
そこによさこいの共演で踊りが加わると、また華やかなステージになりとても素晴らしいです。

でも、太鼓の音はとても響くので、多人数で叩いてしまうと曲が聞こえ無くなりよさこいチームとのコラボのときは、踊る方々が聞き取れるよう少人数で、叩き方も控え目にする工夫をしています。

練習は月一回ペースの限られた時間の上、全員そろっての練習もままならないので個人個人の太鼓の習得状況はさまざまなのですが、毎回、みんな楽しく練習や演奏活動に参加演奏してきました。

楽しくアットホームな倶楽部です。興味がありましたら気軽に立ち寄って見学してみませんか？

今、あらためて太鼓倶楽部のことを思うといろんな方にご協力いただいていることに感謝の気持ちです。いつも温かく指導して下さる佐藤将人さんをはじめ、笑顔のステキなボランティアさん、「桜咲く頃・・」の曲も育成会のメンバーが叩きやすいように譜面を起こして下さった安兵衛保存会の方、イベント時にいつも法被の着付けをして下さる方・・・他、大勢の方々に。本当にありがとうございました。27年度も宜しくお願いします。



よさこいに参加して

保護者　八百板聡子

子供達がよさこいに参加する様になり、2年になります。最初は、周りの人たちとトラブルなく参加できるか…等と、不安は絶えずありましたが、毎週、よさこいを楽しみにしている姿に安心し、自分たちのいる場所をまた一つ作っている子供達のたくましさに頼もしく感じています。

よさこいを通して、子供達はまた沢山の人との出会いがあり、また、これからもいろいろな出会いがある事と思います。人を通して少しずつ成長してもらえたら嬉しいと思っています。

最後に、よさこいを運営して下さっている役員の方、メンバーのお友達に感謝しています。いつもありがとうございます。

新役員紹介

理事長　籠島由美子（重任）
副理事長　成田　享子（重任）
理事　高柳　裕子（重任）
理事　樺沢　浩（重任）
理事　佐藤　玲子（重任）
理事　小林　好子（重任）
理事　皆川　美穂（重任）
理事　林　文雄（重任）
理事　田中　正範（就任）

新理事あいさつ

手をつなぐ育成会へ入会を

新理事　田中　正範

頼まれると断る術を会得できないまま齢をとってしまい、理事を引き受けてしまいました。老害とならないように、心して活動していきたいと思っております。

ところで、手をつなぐ育成会の会員が減っております。全国規模でも同じ現象といわれます。アフリカに「一人の子供が育つには一〇〇人の大人の助けが必要」ということわざがあるそうです。障がいのある子供たちを育てるには更に多くの大人の助けが必要であることは自明です。手をつなぐ育成会は、障がいのある子供を育て助け合う会であり、より多くの会員の参加で活性化すると思います。会員を増やす努力をすると共に、マイナス1とならないよう精進したいものです。

最近各種のイベント等でお父様の姿を見かけることが増えてきていると感じます。父親の参加と力で手をつなぐ育成会の活性化が図られるのではないでしょうか。

研修会

県大会

県育成会広報部会員　時津　聖子

「第19回新潟県手をつなぐ育成会柏崎大会」が、6月28日、柏崎市文化会館アルフォーレで開催され、約550人が集いました。

式典に引き続き、柏崎市消費生活センター相談員の佐藤清子氏による「しまった！困った！そんな時のために」と題した消費生活啓発講座が行われました。障がい者本人や支援者の方々に、悪徳商法などの被害を食い止める方法をアニメーションを交えてわかりやすく説明していただきました。

今年の大会宣言の中にある「語ることで仲間とつながっていきます。」の言葉通り、独りで悩まず、困ったときは信頼できる人に相談する勇気を持つことで、大会スローガンである「明るく　楽しく　活き活きと」した暮らしが実現できるということを感じさせる内容でした。

新潟県手をつなぐ育成会会員研修会に参加して

保護者　成田　享子

家族・本人の高齢化に対応した障害福祉サービスの充実に向けて新潟医療福祉大学の丸田副学長より講演がありました。一日目だけの参加でしたが、初めにご自身の家族やご本人の身体的状況など話され、厳しい家庭環境の中で懸命に努力されていたことに大変驚きました。

いろいろなサービスが受けられるようになった現在でも、本人家族が本当に望むサービスとして満足されている方は少ないのではと思います。それぞれのニーズに合ったサービスを受け、本当の意味での安心できる生活環境、幸せを感じることができる福祉サービスの向上と充実を望みたいと思いました。

関ブロの感想文

本間　隆之

2014年9月19日㈮に山梨県甲府市で行われた大会に参加して、一番印象に残った話は、『障がい者の地域生活を支える体制づくりモデル事業』という話でした。

ケアホームや宿泊型自立訓練、相談支援事業などの24時間サポート体制で、一定範囲エリアに普及する仕組みに、「こういった万全な街づくりや助け合いがあるんですね」と感銘を受けました。来年度も関東甲信越ブロック大会に参加してみたいと思います。

平成26年度　下越フォーラム「みんなの声でできたこと」に参加して

保護者　後藤　盛子

平成26年11月21日㈮カルチャーセンター体育館において開催されました。

下越フォーラムへは毎年参加してきました。フォーラムは一貫して『障害をもった人たちが社会の中で普通に暮らせる共生社会の実現にむけ何をやっていったらよいか』がテーマになっています。

今回のフォーラムは、「障害者福祉支援法」の施行をうけ、「地域作り・福祉のまちづくり」の実現に向け、先進的な活動をされている、社会福祉法人　佛子園理事長、雄谷良成氏の基調講演がありました。講演の内容で心に残ったことを述べます。

雄谷氏は金沢で70人ぐらいの法人施設を経営していられる。氏の理念として障害があったらそれしかできない、というのではなく、多面的な取り組みをやってきた。障害をもった人たちを支援しながら、お寺でのコンサートや美川駅活性化プロジェクトを立ち上げ、駅にカフェ・ギャラリーを開設し、素行不良青年の溜り場から、障害者、老人、住民の憩いの場に変身させた話。ちなみに駅舎利用者は1・5倍になり、老人のディサービスの場にも利用されているそうである。

その外たくさんの取り組みを話されました。

これからは、町に大きな企業が来て、発展するのを待つのではなく、住み、通う人が何らかの役割を担い、支え合い、住みやすい町にしていくことが大切だ。何かをやってもらうのではなく、私たちができることから始めよう。地域のいろいろな人たちの関わり、協力を得て、福祉は成り立っていくもの。福祉職員は、黒子になってサポートすることを目ざしている。

シンポジウムは下越にある、施設、相談室等の方々の「みんなの声でできたこと」が発表されました。昨年、私は、後期高齢者の仲間になりました。色々な会の主宰する研修会に参加、講演等を聞くことは、自己啓発、老化防止にもなります。なによりも、障害をもった我が娘の将来に明るい展望がもてるからです。何事も参加することに意義有りの私ですので参加して、とても勉強になりました。

ハローハロー

地域活動支援センター事業
放課後等デイサービス事業

ハローハロー 更なる一歩に向けて

施設長　佐藤　玲子

ハローハローも福祉サービス事業所としてようやく軌道に乗せることが出来ました。そして今、新たな問題点や改善点の解決に向けて努力しているところです。これからは、利用される皆様のニーズについて十分に理解しているか、そして実際の支援に生かしているかということを重点に考えていかなければならないと思っています。私たちは今の状態で満足しているのではなく、ご利用者が本当に求めているものはなにか、と常に考えていかなければならないでしょう。そのためにも職員のスキルアップを図ることに力を入れてきました。様々な研修の中で「自閉症スペクトラム症」については一年を通じて取り組み、日々の支援に生かすことができたと思っています。個別支援計画の理解とそれに沿った支援、指導については日々の打合せや会議の中で話し合う機会を多く作りました。特に放課後等デイサービス事業では学校帰りのわずかな時間の中でどんな指導ができるのか、本当はもっとゆっくりさせてあげてもよいのではないかなど常に葛藤しているところです。地域活動支援センター事業では個々に違ったニーズを持ったご利用者でありながら、全体に無理のない活動をしていかなければなりません。まだまだ足りないことだらけですが、いろいろなことにチャレンジして「昨年よりもっと使い勝手がよくなった」「安心できる」と言ってもらえるような事業所を目指していきたいと思っています。これからも皆様の力をお借りしていかなければなりません。どうかよろしくお願いいたします。

ハローハローの職員となって

ハローハロー支援員　伊東　智史

昨年の春、縁あってハローハローの職員として新たなスタートを切る事となりました。

障がい者支援という事で、何も分からない状態での仕事の開始となり、不安で一杯でした。

右も左も分からない中での仕事でしたが、他の職員からの温かいアドバイス・ご利用者の笑顔に助けられながら、日々の業務を行っています。

支援中は色々な事が起こります。朝から元気で日中活動を頑張っていたご利用者が急に具合が悪くなってしまう。いつも楽しそうに行っていた活動が今日は嫌そうにしているなど、支援していると「なぜだろう？」と思う事がよくあります。今はその「なぜ？」と悩む事・解決策を考え実行する事が、支援の難しい事でもあり、同時に楽しくもあり、やりがいに感じています。

まだまだ知識も経験もありませんが、もっと勉強と経験を積んで質の高い支援をして行こうと思っています。

『ハローハロー』を利用して

保護者　伊藤　朱美

私が「ハローハロー」を利用させていただいて早いもので3年目になります。利用当初は、家族や先生以外の人と過ごす事ができるのかとっても不安でした。指導員の方のあたたかい対応のおかげで今では、学校まで迎えにきてくれる車を見つけては、ニコニコ、金蘭荘ではリラックスして放課後を過ごしています。

なにかと悩みが多い子育てですが、指導員の方や育成会の先輩に気軽に相談できる場所として私にとっても安心できる場所となっています。

放課後、安心して過ごせる場所を作っていただいたおかげで、私も仕事をする事ができ充実した日々を過ごしています。

「ハローハロー」を利用して時間的に余裕ができたばかりでなく精神的にも余裕ができました。本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いします!!

本人の会 スマイル

日帰り旅行

佐藤　祐一

平成26年10月5日に日帰り旅行に行きました。バスが高速道路へ行き、黒埼パーキング、栄パーキング、その次は越後川口パーキングで休憩をしました。ところが湯沢あたりから雨が降っていました。そして高速道路を降りて、魚野の里に到着。そこで昼食を食べました。食事をしたあとは売店でお土産を買いました。お土産を買ったあとに笹だんご味のソフトクリームが珍しかったので買いました。食べてみたらうまかったです。笹だんご味のソフトクリームが他の場所には無いかもしれなかったので、あいにくの天気でしたけども、これはいいチャンスだったと思います。

湯沢高原に着きました。ロープウェーに乗ってアルプの里に行きました。ところがあいにくの雨風でアトラクションが楽しめなかったのが残念に思いました。それから湯沢高原の売店でお土産を買いました。そして湯沢高原を後にし、ＣｏＣｏＬｏ湯沢がんぎどおりに行きました。いろいろ見て回ってきました。それからバス車内でカラオケを楽しんだりしました。高速道路へ行き、栄パーキング、黒埼パーキングで休憩をしました。そして新発田に到着しました。ケガもなく無事、日帰り旅行が終了しました。

料理教室

榎本　高士

サラダうどんはさいこうにおいしかったです。また作ってみたいです。

しおかぜウォーク

中村　恵

私は２回ぐらいしおかぜウォークにさんかしました。4.8㎞歩きました。最初は4.8㎞も歩けるかなと心配でした。でも4.8㎞頑張って歩いて、みごと完走することができました。完走したときはすごくうれしかったです。１回目のときは私は手をつなぐ育成会のスマイルの高柳健さんと水戸部さんと、のぞみの家福祉会のスクラムの石井伸明さんと一緒に歩きました。２回目は高柳所長さんと一緒に歩きました。しおのにおいや波の音をききながら楽しく歩き、小鳥のさえずりをききながら楽しく歩きました。１回目はくもっていて、みえるはずの佐渡が島、粟島がまったくみえませんでした。２回目のときは天気がよくって、みごとに佐渡ヶ島と粟島がみえました。はっきりときれいにみえました。佐渡ヶ島と粟島がみれて本当によかったです。みれたときはうれしかったです。所長さんと楽しい話やさんさいの話をしながら歩きました。スタンプをおしながらまわりました。スタンプ全部おすことができました。4.8㎞歩いてよかったです。4.8㎞歩けたので少し長いきょりで8.5㎞にちょうせんしてみたいと思っています。とってもいい気持ちでした。またしおかぜウォークにさんかしたいと思います。

会員の声

ボランティアフェスティバル

保護者　石井　弘子

私がボランティアフェスティバルを知ったのは、子どもがひまわり学園に通っていた頃です。作品が展示されるという事で、それを見に行ったのが最初でした。育成会に入会してからは、太鼓倶楽部のメンバーとして演奏に参加する子どもに付き添ったり、フェスティバルの準備をお手伝いしたりしてきました。

今年は、伸明は太鼓の発表、私は育成会の展示パネルの前で野菜とめぐるストラップを販売しました。絵手紙クラブの皆さんもカレンダーを販売しました。いろんな人が声をかけてくださり、大変久しぶりに再会した方もいました。お陰さまで、野菜を完売することが出来ました。また、他のボランティア団体の発表や展示を見て回ったり、お話しできたことは良い経験でした。

販売に関わっていたので、子どもの太鼓発表の準備は、他のお母さんがたにお願いすることになってしまいましたが、快く面倒を見た頂きありがとうございました。

楽しかったクリスマスパーティー

保護者　皆川　美枝

案内が届くたび、気づくと申込み期限が過ぎてしまっているのが常で、一度も参加したことがありませんでした。今回も「どうしようかな・・」と思っていた、まさにそのとき、「ねぇクリスマスパーティー行かない？ステージでの発表やくじ引き、最後はみんながステージに上がって踊るんだよ。食事はバイキング、みんなおしゃれしてくるし楽しいよ！」と友達からの電話。「うん、行く！」二つ返事で早速申込みました。

当日は朝から雪。会場には大勢の参加者。来賓で副市長さん、教育長さん、議員さんもおいでになっていて、子ども達に声をかけてくださって、嬉しい気持ちになりました。

ステージ前の一番良い席に陣取った私達。バイキングで好きなものを好きなだけお皿に積み上げ、舌鼓を打ちながら、目の前で繰り広げられる迫力満点の太鼓やよさこいの踊りにびっくり。また、素敵な渋谷駿さんのマジックに目はくぎづけ♡最後、ハローハローの踊りに、声をかけてもらい、ちひろもステージへ。満面の笑みで嬉しそうでした。

パーティー終了後はゆっくりと温泉につかり、心も体もぽっかぽかで帰宅しました。参加して良かった。誘ってくれた友達に感謝！今後は他の行事にも参加してみたいと思いました。

楽しかったチャレンジスポーツ

稲岡　裕希

障がい者チャレンジスポーツに参加しました。6回全部参加しました。フライングディスク、卓球バレー、ボッチャ、ポールウォーキング、カローリング、スカットボールなどをやりました。

一番楽しかったのは、フライングディスク大会です。10本のうち8本入りました。賞状をもらってうれしかったです。また、参加したいです。

新発田でやっていきたいこと

保護者　澁谷　知子

和歌山県から新発田市に来て、知らない土地で戸惑い不安な日々を過ごしていましたが、育成会の皆さんと出会いこの一年はとても楽しい一年と成りました。育成会の皆様には本当に感謝しています。有難う御座います。

私が基本としていつも若いお母さん達に伝えて来た事は、早期発見・早期診断・早期療育です。言葉でいうのは簡単ですがこの三つを実現することはとても難しい事です。それは、あらゆる関係機関との密な繋がりと信頼がなければ実現出来ないからです。新発田に来て一番初めに感じた事が関係機関の連携と情報の共有が、出来ていない事でした。

まず一つ目は、診断を受ける前や診断後のお母さん達と繋がりを作る為に定期的な子育て相談室を作りたいと思っています。同時に情報発信をして行きたいと思います。二つ目は、性教育です。新発田では、こんな大切な問題を疎かにしているような気がします。絶対に軽んじてはいけない問題です。

講演や勉強会などで題材として行きたいと考えています。皆様のご協力とご支援を宜しくお願い致します。

あたたかいご寄付をありがとうございました

新発田市手をつなぐ育成会へ
ソロプチミスト新潟はまなす様　300,000 円
匿名様　100,000 円
ハローハローへ
匿名様　20,000 円

助成金

新発田市より　37,000 円
新潟県手をつなぐ育成会より
　地域福祉基金運用益活用事業助成金　130,000 円
　知的障害者ボランティア活動支援事業　20,000 円
新潟県共同募金会新発田支部より　40,000 円
　スマイルへ　150,000 円
新潟県共同募金会より
　ハローハロー地域活動支援センターへ　150,000 円

祝 新成人

育成会員のお子さんで今年成人を迎えられた皆さんをご紹介します。

阿部　友亮さん　（希望の家）
籠島　由夏さん　（のぞみ工房）
松田　拓郎さん　（虹の家）
横井　大樹さん　（希望の家）

新成人を祝う会（スマイル主催）にて

新発田市手をつなぐ育成会絵手紙クラブ 復興支援 2015 カレンダー

1部500円

（カレンダー売上金の収益は被災地の仲間たちに届けられます）

平成26年度 育成会活動報告

5月18日	定期総会（カルチャーセンター）	77名
6月28日	手をつなぐ育成会県大会（柏崎市文化会館アルフォーレ）	23名
8月 2日	緑風園納涼祭　太鼓倶楽部・よさこい「煌」出演	
8月26日	新発田祭り　太鼓倶楽部・よさこい「煌」出演	
9月 7日	下越研修会　（ほっとHOT中条）	6名
9月19日	関東甲信越大会　甲府富士屋ホテル	8名
10月12日	ガス展（コモタウン）　よさこい「煌」出演	
10月26日	ボランティアフェスティバル参加　（カルチャーセンター）	
11月8~9日	県育成会会員研修会　（岩室温泉ゆもとや）	2名
12月21日	クリスマス会　（月岡温泉冠月）	136名
〈平成27年〉		
2月27日	懇親会　（金子屋別館）	73名
3月29日	卒業を祝う会　（金蘭荘）	20名

上記の他、理事会（総合企画部会）を6回、役員会を2回開催
クラブ活動
太鼓倶楽部（月１回）・よさこい（月4回）・絵手紙（月１回）・コーラス（月２回）

平成26年度スマイル活動報告 テーマ「ぼく・わたし自立をめざし 未来をきりひらこう」

4月27日㈰	スマイル定期総会　終了後レクリエーション	（地域交流センター屋内広場）	30名
6月 8日㈰	新発田市しおかぜウォーク参加	（新発田市藤塚浜海水浴場）	29名
7月13日㈰	料理教室（サラダうどん・フルーツ杏仁）	（地域交流センター調理室）	36名
9月19日㈮	関東甲信越ブロック大会	（山梨県甲府市）	8名
10月 4日㈯	赤い羽根共同募金街頭募金活動		14名
10月 5日㈰	日帰り旅行	（湯沢町アルプの里）	35名
11月16日㈰	レクリェーション「みんなで体を動かそう」	（地域交流センター）	27名
〈平成27年〉			
1月11日㈰	合同新年会	（地域交流センター）	21名
2月22日㈰	勉強会	（地域交流センター）	20名
3月22日㈰	新成人を祝う会２０１５		40名

他　毎月１回定例役員会議

編集後記

この度もまた玉稿を賜りました新発田市長・二階堂馨様に、日頃の新発田市手をつなぐ育成会に対するご理解とお力添えに、深く感謝申しあげます。

新発田市手をつなぐ育成会の活動の中で特に活発なのが、本人さんたちの活動です。太鼓倶楽部やよさこいチームは毎年さまざまなイベントに出演し、腕前も年々上達しています。また絵手紙クラブは東日本大震災以来、絵手紙カレンダーを製作し、売上金から東北地区の育成会への寄付を続けており、昨年は福島県手をつなぐ親の会連合会様より感謝状をいただきました。

また、本人さん自身が企画運営している「スマイル」の活動は、仲間作りという大切な意義を持ち、その活動を心の拠り所としている方々もたくさんいらっしゃいます。

新発田市手をつなぐ育成会の活動には、赤い羽根共同募金様をはじめ、たくさんの助成金をいただいております。今後も本人の生活を充実させるための活動を、会として支えていきたいと考えています。

編集部員
宮野　明子・川上　栄子
木滑加矢子・稲岡　千洋
時津　聖子